

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0911
東京都 八王子市打越町 334-2-5-201
花輪 宗命 TEL : 090-2213-0257
Fax:042-636-6157
E-mail : hanamate@rk9.so-net.ne.jp

2023年 4月

The Service Club of The YMCA

第334号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	花輪 宗命	国際会長 ウルリック・ラウリドセン (デンマーク)
副会長	茂木 稔	主題 「輝かそう、あなたの光を」
書記	久保田 貞視	スローガン 「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
会計	長谷川 あや子	アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen 主題:「新しい時代とともに エlegantに変化を」 スローガン「今すぐ実行を」
直前会長	山本 英次	東日本区理事 佐藤 重良 (甲府 21) 主題:「未来へ向けて今すぐ行動しよう」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン 「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
ブリテン	山本 英次 茂木 稔 大久保 重子	あずさ部部长 後藤 明久 (富士五湖) 主題「ワイズへの参加と交流を楽しもう」 八王子ワイズ会長 花輪 宗命 主題「感謝と報恩奉仕」

巻頭言

「ワイズが目指す Well Being とは？」

会長 花輪宗命

3月の第一例会の卓話で、並木真次期会長は「ワイズメンズクラブ東日本区:次期役員、部長、クラブ会長研修会」の概要を報告され、その中で、山田公平次期理事の「東日本区の2023-24年度の方向性」と題する講話を紹介されました。

国内外の動静の見通しが不透明で不安定な昨今、ワイズメンはこれからどのような方向を目指して活動すべきかは、避けて通れない重要課題ですが、山田次期理事は、その問いに対する答えのキーワードは“Well Being”

先月の例会ポイント (3月)

在籍	12名	切手	0g
		22~23年度	計1698g
メン	10名	現金	0円
メイキャップ	1名	累計	0円
出席率	92%	スマイル	15,500円
メネット	2名	累計	94,650円
ゲスト	1名	オークション	0円
ビジター	2名	累計	0円
ひつじぐも	2名		

4月例会プログラム

(担当:B班:花輪・望月・並木真・久保田)

日時:4月8日(土)18:00~19:30

会場:八王子市北野事務所2階大会議室

受付:望月メン・並木真メン

司会:久保田メン

開会点鐘 花輪会長

ワイズソング 一同

ワイズの信条 一同

ゲスト・ビジターの紹介 花輪会長

聖書朗読・感謝 並木真メン

卓話「JCBLの現状と今後の展望」

卓話者 JCBL 監事 山口誠史 氏

東京YMCA 報告 菅野担当主事

報告・連絡事項 会長・各委員

Happy Birthday 花輪会長

スマイル 望月メン

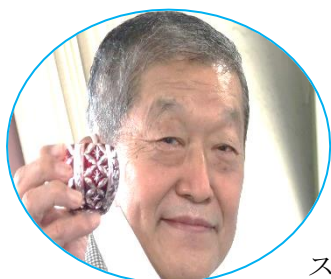
ゲスト・ビジター一言 司会

閉会点鐘 花輪会長

今月の聖句(2023年3月)

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」
(新約聖書ヨハネによる福音書 20:19~21)

であり「ワイズは、自分の中で Well Being を目指す団体に」なろうと話されたようです。



そう言えば、最近私たちは、いろいろなところで“Well Being”という言葉

を耳にすることがあるので、私達は、山田次期理事のお話の趣旨はいったんはスツと頭に入ったように思いましたが、例会が終わってから改めて考えてみると「ワイズが目指す Well Being とは一体何か？」という疑問に浮かんできました。

今期の会長ではあるもののワイズ歴が相対的に短い私は、この疑問に答える知識も資格もありませんが、山本ブリテン編集長のリクエストに答えて、山田次期理事の意図するところが「これからの東日本区が目指す方向性に関すること」にあることを踏まえ、以下に、会長としての公式見解ではなく、これからの時代に皆さんと一緒に活動をしている新参者の一会員としての理解の一端を披歴させて頂こうと思います。

“Well Being”とは、辞書などに見られる一般的な定義では「幸福」とか「健康」などと訳されていますが、私は、最近国際的によく引用されている世界保健機構(WHO)憲章の前文の一節に見られる「肉体的にも、精神的にもそして社会的にも、すべてが満たされている状態」のことを指しているのではないかと受け止めました。

そのように受け止めて、山田次期理事が仰しゃる「ワイズが目指す Well Being」とは、恵まれない状態にある隣人に救いの手を差し伸べる「福祉」というニュアンスの“Welfare”ではなく、今の時代を共に生きている多様な仲間(隣人)とつながり、お互いを認め(愛し)、支え合い、助け合っていく「至高の幸福状態」に自分自身を置いて、自分らしく、自分のペースで、やりたいこと(活動)をやっていくことだと理解しました。



次期会長研修会報告の並木 真メン

東京グリーンクラブ50周年記念例会に参加して

久保田貞視

東京グリーンクラブの50周年記念例会が2023年3月21日、KKR ホテル東京で開催され、花輪会長、長谷川直前部長と出席しました。

記念式典では、青木方枝ワイズが司会を務められ、樋口会長の歓迎の言葉で、1973年3月以来の各クラブのご支援により50年を迎えられたことへの感謝表明がありました。続いて今回はコロナ禍でもあり参加者を絞らざるを得なかったことを詫びられ、当クラブのCS事業の「神田川船の会」は設立6年後の1979年に立ち上げ現在も続いているが、特に、都内の小学生および親子学習の招待乗船を1984年から年2回実施していることに誇りを感じていると述べられました。

来賓挨拶では、星野東京YMCA副総主事がやはり、神田川船の会に触れられ、佐藤東日本区理事はワイズの高齢化が止まらないが、当クラブは当初、若手のクラブグリーンクラブと命名されたようですが、50年経ち、今や対極の赤紫の情熱を持って頑張っておられる事に敬意を表されました。メモリアルでは最近天国に召された塩入公之助ワイズ、浅見隆夫ワイズ、布上征一郎ワイズを偲んで映像が流されました。

第2部のミニコンサートは、ピアノトリオのグループ「アンディムジーク」によるピアノ、チェロ、ヴァイオリンの三重奏で、ハイドン、ドビュッシー、シャンソン、シューマンの曲の素晴らしい演奏を披露してくれました。

第3部の記念祝会は、DBCの京都パレスクラブ会長の挨拶のあと、親クラブ代表で東京江東クラブの元国際会長の藤井ワイズからチャーターメンバーであったがすでに天国に召された浅見ワイズとの東日本区理事引継ぎ等のエピソードを話され、次期理事の山田公平ワイズの乾杯となりました。

久しぶりの美味しいご料理をいただきながら、参加クラブの紹介となり、出席者84名が紹介されてそれぞれ立ち上がりました。また、チャーターメンバーへの記念品贈呈は古平光市ワイズと当初メネットからメンに移った青木方枝ワイズの2人が長い半世紀を振り返って感無量である旨挨拶をされました。その後、スマイルを東京YMCAの子ども食堂など子ども支援にと樋口会長より星野副総主事に手交されました。

最後は実行委員長の柿沼ワイズの謝辞で閉会となりました。4年ぶりともいえる久しぶりの設立記念例会に出席して、参加者は皆、明るい笑顔で散会となりました。

3年ぶりのオープンフォーラム・Y

小口多津子(部ユース主査)

5月20日(土)にオープンフォーラム Y が開催されます。場所は四谷、日本YMCA 同盟会館です。

YMCA のスローガン「みつかる。つながる。よくなっていく」に、もっと親密になろうということで、衣笠ユース事業主任の副題が、「集まろう、聴こう、そして伝えよう」です。今年、前年度から始まっているY's×SDGsユースアクション 2022 のチームからの報告を聞き、それを共有し、繋げ、さらに拡散、参加を求めるものです。もう一つは、今の社会的課題、日本語指導が必要な海外ルーツの子らへの語学指導と生活に関わっているNPO法人「メタノイア」の基調報告です。

出席はリアルと ZOOM オンラインです。(参加費は無料、申し込みが必要です)

東京八王子クラブの例会に毎回の出席をして下さっている、私達の仲間の中央大学学 Y ひつじくもが、この2022 ユースアクションの選考会で選ばれて、彼らの環境問題ゴミ啓発運動をこの1年間、実施して、大きな活動をしてきました。この1年での前委員長、関口遼さんが、すでに数回、中間報告をされてきました。

私は彼らのこの環境問題ゴミ啓発運動の1年間の報告を聞いていて、まず感じたのが、運動への意識の変わりようでした。始めた時と1年後の違いは、まさにみつかる、つながる、よくなっていく、でした。

同じゴミでも、ガラスへの意識から始まりました。ガラスは環境負荷の高いもので、土にかえるまでに100万年かかるとのこと、それに注目して、ごみ拾い甲子園大会で、負荷の高いガラスごみに注目し、なんと400人参加中の1位でした。負荷の高いごみの順に点数が決まったそうです。また彼らは、ただ行動するだけでなく全員が「ヒブス」を着用することで中央大学生を証明。ごみ拾い甲子園に参加して、他大学生や他のグループとの情報交換や交流が始まり、「つながる」を証明しました。このことは、毎月のクラブブリテンの中の「ひつじくものコラム」で、毎回違う学生さんが報告されていて、読んでいてとても楽しかったです。

実行が早いとか、若さだけではない、このSDGs問題を真剣に考えているからこそその行動と成果だったのではと思います。

5月のオープンフォーラムの中の発表で、彼らがいろいろな方面の方と意見交換が出来たらと思います。

**5月20日(土)にオープンフォーラムYが開催
Zoom 参加者募集**

ユース事業報告

東京八王子クラブ ユース担当 長谷川あや子

2022年度は大学生生活も通常に戻り対外的課外活動も始まったようです。

「Y's×SDGs Youth Action2022」に中央大学YMCA ひつじくもが「クリーンな街づくり計画」をエントリーし見事に選ばれましたが、その後も継続的に活動し「ごみ拾い甲子園」(大学対抗400人参加)ではチーム優勝を果たしました。その時の様子を東京八王子クラブのブリテンに寄稿して下さいました。

2022年7月には「ひつじくも」も新体制となり、ワイズ係4名の紹介がありました。

8月の例会は恒例の「クラブ直前会長感謝会」ですが、そこにひつじくもから4名の参加がありました。過去2年間にはコロナ禍で会うことができず Zoom のみの交流でしたが、2022年8月によりやく対面での交流ができました。

月	例会	卓話	中大生
2022年 8月	会食	直前会長感謝会として外部の店で会食	4名
2022年 9月	リアル 例会	「神田川船の会の展望」	3名
2022年1 0月	リアル 例会	「日本外交の重要性」	12名
2022年 11月	リアル 例会	「IYCに参加して得たもの」 峯尾 心さん・伊藤 瑠南さん	3名
2022年 12月	リアル 例会	クリスマス例会	5名
2023年 1月	ハイブ リッド	「協働のまちをめざして」	2名
2023年 2月	リアル 例会	「自然と共生するための国際協力とは」	4名
2023年 3月	リアル 例会	「次期会長・部役員研修会に参加して」	2名

特記

2023年3月18日中大学Yひつじくも追い出しコンパに東京八王子クラブからも参加

中大学Yひつじくも追い出しコンパ(ZOOM)に東京八王子クラブから5名参加。

中大学YのOB会である白羊会、卒業生の会、東京八王子クラブ、今春の卒業生、在校生が集まりました。

1時間のZOOMコンパでしたが、プログラムもきちんと組まれ、コロナ禍を乗り越えて卒業生から在校生へ上手にバトンが引き継がれているのがわかりました。

IYCに峯尾 心さん・伊藤 瑠南さんを東京八王子クラブから推薦し、両名参加されました。

お二人の先達を訪ねて

小口多津子

チャーター時からのメンバーでいらして先に亡くなられた橋本秀昌さん、大久保 清さんの墓地を、3月6日に有志5人でお参りしてお花とお線香をささげてきました。お二人の墓地がそれぞれに北野駅近辺でしたので、山本さんが車で案内をして下さいました(山本さん、大久保重子さん、長谷川さん、久保田さん、小口)。大久保さんのお墓の前では思い出話が尽きず、大久保さんは、いつも皆を笑わせ、だれかれとなく指名して初恋の話をさせたがったことでした。それで久保田さんがその思い出の一つを話されました「相当前のクラブ初期のころに、山中湖センターで当時の親クラブの、東京多摩、東京サンライズと八王子との合同例会があった時でした。皆で車座になったときに大久保さんが、皆でそれぞれの初恋の話をしようと言い出して皆が各自の初恋の話をしたことがありましたね、大久保さんも重子さんとの出会いなど話されたよね」。お墓の前でその思い出を聞いてみなで大笑いしてしまいました。また来年もきますよ、と挨拶して北野駅に戻りました。北野の丘は梅の香りでいっぱいでした。



上:大久保 清さんのお墓

下:橋本秀昌さんのお墓



ひつじぐも 追い出しコンパ

次期委員長 大山 希

三月のひつじぐもの主なイベントに、四年生の追い出しコンパがありました。昨年度同様オンラインで追い出しコンパに加えて、コロナの感染症が落ち着いてきたこともあり、学生だけで対面の追い出しコンパも開催しました。

オンラインでの追い出しコンパは三月十八日に開催し、白羊会の方々、八王子ワイズメンズクラブの方々、卒業生の方々にもお越しいただきました。私たちが在校生も含め会に参加した人皆が久々に四年生と顔を合わせる事ができ、四年生との思い出を語り合いました。

皆さんがお話されているのを聞いていて、四年生のおかげで、厳しいコロナ禍においてもひつじぐもがサークルを維持できたことや、縦のつながりが絶えることなく続いていることを改めて感じました。

四年生との思い出を思い返すと、コロナ禍の中、工夫をしてサークルを盛り上げていた印象が強いです。

私たちの学年は四年生が行う新歓活動を通してひつじぐもに入会しました。当時ほとんどのボランティアサークルがコロナの影響で活動を停止していましたが、ひつじぐもはオンライン上での活動が活発で、勉強会や交流会を通じて仲を深めることができました。そういった会に参加したときは優しく声をかけてくださったことを覚えています。

私たち在校生は、そんな四年生から、「今の時間を大切に活動を頑張ってほしい」というお言葉を頂きました。最近是对面での活動も増え、サークル員同士の交流も増えてきています。四年生が繋いでくれたひつじぐものコミュニティを大切にしていきたいという思いがさらに強くなりましたし、このコミュニティをより活発にして下の代に繋いでいきたいです。

そして、このように各方面の方々が集まってお話しする機会はなかなかなかったので、改めてひつじぐもの縦のつながりの強さを感じる機会となり感動しました。一時間ほどの短い時間でしたが、中身の濃い会となり、とても楽しかったです。

対面での追い出しコンパでは、四年生と対面でお会いしたことが一度もなかったため初めは緊張感がありました。しかし、一緒にご飯を食べていくうちに緊張も解けて、楽しい時間を過ごしました。昔のひつじぐもと今のひつじぐもの雰囲気の違いだったり、昔の活動の様子だったり聞いて、新しい発見がありとても新鮮でした。また四年生や皆さんとお話しする機会を作れたら嬉しいです。

卒部生の残す言葉

2021年の委員長の渡辺伊純と申します

コロナ禍の真っ最中に委員長に就任し、そんな時だからこそ、オンライン交流会やオンライン勉強会に力を入れ、活動を止めずに継続できました。

本当にこの活動を止めることなく継続させることができたのは部員たちが活動に積極的に参加してくれて私の背中を押してくれたおかげだと考えています。

卒業生会の柳原さんや鶴田さんとは卒業生と現役生の交流会というものを一緒に運営や企画を行っています。ひつじぐもの委員長として皆さんと活動することができたのは本当に私の人生においてとても大切な宝物になったと思っています。

ひつじぐもの副委員長を務めさせていただいておりました。商学部商業貿易学科4年の石毛杏奈と申します。SNSを今までよりも積極的に活用してひつじぐものはこういう活動をしているよ、とかこんな魅力があるよっていうところを発信していったかなと思います。これからのひつじぐもの部員の皆さんには既存の児童館であったり国際ボランティアサークルという世界の方々との交流もどんどんしていって、ひつじぐもこれから盛り上げていってほしいなと思います。

経済学部経済学科4年の梁川元治です。

自分がサークルでやってきたことを自信を持って人に伝えられるような活動をしていくと、この人はそういう価値観でいろんな活動をやってきたんだなっていうふうに相手に伝えられると思うのでそういう信頼される人になってください。私もこのサークルに入れたことをとても嬉しく思っています。

4月卓話者のご紹介

山口誠史（やまぐちまさし） 1956年埼玉県生まれ
(特活)地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL) 監事
(特活)シェア＝国際保健協力市民の会 理事

2001年からは、保健医療専門のNGOである(特活)シェア＝国際保健協力市民の会の事務局長として組織運営及びプロジェクト全体を統括。

2010年3月からは、国際協力NGOのネットワーク組織である(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)の事務局長に就任。

2015年4月からは、都会人の地方移住を支援するNPOである(特活)ふるさと回帰支援センターで総務部長として勤務。

2019年4月から2020年12月までシェア＝国際保健協力市民の会に理事・ファンドレイジング担当として勤務。2021年1月以降は理事として活動を継続している。

地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL) の監事は、2007年頃から現在まで継続。

国際協力NGOでの勤務は、4年半の海外駐在を含めて通算30年間。

今月の聖句に寄せて (2023年 4)

イエスが十字架上の無残な死を遂げてから、イエスに最後まで従ってきた弟子たちは、心に絶望と無力感を抱きながら町の郊外や野原をさまよっていました。そこに、この弟子たちの絶望を希望に変える出来事が起こりました。「イエスの復活」です。この「復活」こそ、キリスト教信仰の中核となる出来事です。亡くなった人がよみがえるなど、しかも、多くの人々が見ている前で、十字架上で手足に釘を打たれ、脇腹を槍でつかれて無残に死んで墓に葬られた人がよみがえるなど、信じられることではありません。弟子たちも同じでした。そこでイエスは手と脇腹の傷を見せて、本当によみがえったことを信じさせました。

それまで、時に疑い、時に迷いながらもイエスに従ってきた弟子たちではありませんでしたが、イエスの復活に立ち会ったという確信が、それからのちの弟子たちの生き方を根本的に変えることになりました。イエスがキリストであり神の子であり、十字架上の死と復活によって、永遠のいのちと救いをもたらすということを信じるようになりました。そして、自分が信じるだけでなく、多くの人々に語り伝えるための活動を始めるようになりました。宣教活動に派遣されていくのです。

クリスマスとならんでキリスト教において大きな意味をもつ、今年の復活祭（イースター）は4月9日です。



並木 信一

わくわくビレッジ便

担当主事 菅野牧夫

今年は季節の移り変わりが早く、わくわくビレッジの桜も最盛期を過ぎてしまいました。この時期になると毎年見られるのですが、桜の花びらが散って、道路が雪が降った後のように見えます。今年ももう少しでそんな景色が見えるようになります。

3月の末で今まで長年プログラムスタッフとして頑張ってきた鶴岡が退職となりました。プログラム提供で主力として頑張ってきたスタッフなので、大きな痛手となっています。4月から2名のスタッフが東京YMCAより出向してきます。新しい年度になりましたら皆さんにも紹介させていただきますが、1名が寒川、もう1名が山添というスタッフになります。寒川は事務局長補佐という役割、山添はプログラムスタッフという役割でわくわくビレッジの運営を支えています。今までのスタッフともども、どうぞよろしくお願ひします。

今年度のわくわくビレッジ宿泊者数は23,500名を超えてきました。コロナウイルスの拡散が始まった2020年度は5,500名強まで落ち込みました。昨年度が11,000名強になりますので、着々と宿泊人数が増えてきています。2011年度から2019年度までの平均宿泊人数は34,000名になりますので、例年と比較すると約70%弱まで回復してきています。ここ何年かは予約が入っていたのに、キャンセルが入り、ふたを開けてみたら宿泊人数が減ってしまうの繰り返しでした。2023年度は32,000名の予約が、そのまま残ることを祈っています。

コロナ以降のガラガラのわくわくビレッジに慣れてしまっているスタッフは、人数が増えてきた時の対応にあたふたしています。2023年度はすでに32,000名

の予約が入っています。このままハイシーズンを迎えてしまうと、大きなミスをしてしまいそうです。4月に入りましたら、新人も加入したことだし、スタッフの気持ちを引き締めるために研修の機会を持ち気持ちを一つにして進めてまいりたいと思います。



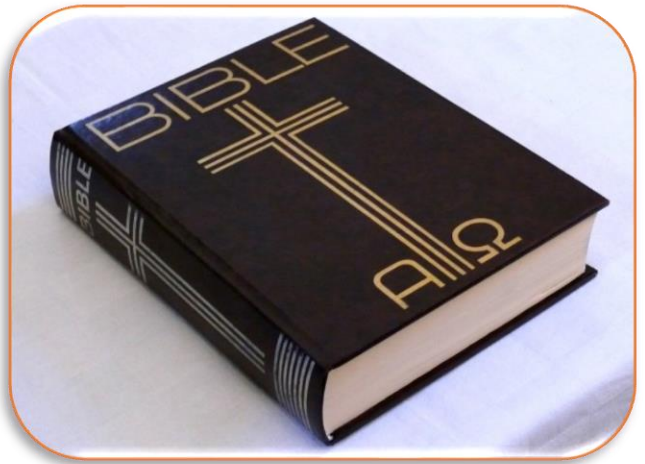
わくわくビレッジの夜桜

ひっじぐも便

ひっじぐも1年 金子百花

3月4日土曜日、日本YMCA 同盟会館で行われた、関東地区学生YMCA冬のオリエンテーションに参加しました。まずは、自己紹介からアイスブレイクを行い、Yの方々と親睦を深めました。初参加ということもあり、緊張とぎこちなさがありましたが、アイスブレイクでの、ジェスチャーゲーム、絵しりとりを通して、Yの方々と少しずつ打ち解けることができました。

そののちに、聖書研究を行いました。新約聖書・マタイによる福音書6章25～34節「思い悩むな」を取り扱い



ました。自分の体や命が大切であるから、衣服や食べ物について思い悩むな、明日のことは明日悩めばよい、という内容のものでした。私がこの文章を読んだときは、生きているだけ、ただそれだけでいいんだ、という励ましのエールをもらったような気持ちになりました。

しかし、「あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか」という言葉に対して、やはり人間(ユダヤ人)が1番であるという思想がバックグラウンドにあるからか、という意見や、実際自分を振り返ると、明日何着ようか考えてしまう、という意見、この言葉は明日が不安になるような危機的状況に対するものだから、今の私たちと当てはめるには少しずれる部分がある、といった意見がありました。

同じ文章を読んでも、目をつけるところ、考える視点や内容がさまざまであったため、新たな意見に触れるたびに、話し合いが深くなっていくのが肌で感じられて、濃密な時間を過ごすことができました。

たくさんが発見が得られ、大変勉強になりました。数時間ではありましたが、有意義な時間を過ごせました。

今月の聖句に寄せて (2023年 4月)

ロシアがウクライナへの軍事進攻をはじめてから1年が過ぎました。瞬く間に過ぎた1年であったようにも思え、また逆に果てしなく長い時を過ごしているようにも思えます。多くのひとにとって、この一年ほど「平和」を言葉にしたこともなかったのではないかと、思えるほどに、「平和」を願ったこともないように思います。

「平和」はどのようにしたらもたらされるのでしょうか。今のように、軍事的侵攻によって脅かされている「平和」の現実からは、他国からの侵略のないこと。まず、軍事的な勝利によってもたらされる「平和」を考えざるを得ないようにも思えます。

そして、軍事的に侵攻してきた敵を追い払った結果として「平和」を達成するのであれば、これから、平和を保つためには、攻め込まれないようにすればよい、ということになるのでしょうか。攻め込まれないようにするためには、まずは強い軍事力を保持することがなにより大切、という考え方があります。私たちの社会で今、この考え方は多くの人の支持を得ようとしているように思えます。しかし、この方法は失敗してきた歴史があることを忘れてはならないでしょう。では、どうすれば。

エレミヤ書には、すでに捕虜になっている人々に対して、自分たちの国を滅ぼして、自分たちを捕虜にした人々の平和と繁栄を求めなさい、との言葉があります。

この言葉の裏に、新しい「平和」の在り方の鍵になる考え方があるのではないかと、いう人がいます。

解説：並木信一



東京YMCA 近況報告 4月

- ◆ 2月6日に発生したトルコ・シリア大地震の被災者を支援する緊急支援募金を、3月末日を期限に全国YMCAで開始した。寄せられた募金は日本YMCA同盟が加盟する人道支援を行う国際団体「Act Alliance(アクトアライアンス)」を通して、現地の被災者支援活動のために用いられる。
- ◆ 3月11日、「第24回libyチャリティーコンサート」が在日韓国YMCAスペースYにて開催され、83名が来場した。三菱商事コーラス同好会による合唱と、越智光輝氏(クラリネット)、門倉美香氏(ピアノ)、田口裕氏(チェロ)による室内楽の演奏が好評であった。東京たんぼぼYサービスクラブ、liby運営委員会他、ボランティアの方々に準備と運営のご協力をいただいた。益金とご寄付を合わせた788,100円は新しいオープンスペースlibyの活動のために用いられる。
- ◆ 3月11日、東陽町コミュニティセンター主催による「東日本大震災記念講演会」が東陽町センター及びオンラインで開催され、63名が参加した。震災当時、仙台の港町閑上地区に居住していた木島上氏(インターサーブ・ホスピタリティ開発事務所代表取締役)から被災体験をお聞きし、地震発生時刻の14時46分に黙祷をささげた。映像や音楽、詩の朗読もあり、交流と学びの時となった。また3月11日前後に会員部他いくつかの拠点で「石巻物産展」を行い、被災地への継続支援を呼びかけた。
- ◆ 2023年度より品川区北品川(御殿山トラストタワー内)に新規オープンする「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」は、プレオープンとして、3月22日からスプリングプログラム(春休みの短期水泳教室)を開始した。開設準備やメンバー募集も順調に進み、4月からは幼児から高校生を対象とした水泳クラスが本格的に始動する。
- ◆ 今後の主な行事日程
・「第20回会員大会」5月27日 会場:山手センター

(報告)

日時: 3月11日(土) 18:00~20:00

会場: 北野事務所

卓話「次期クラブ会長・部役員研修会に参加して」

卓話者: 次期会長 並木 真

2023年3月4-5日 会場: 東山荘にて開催

1. 研修会の流れと概要

- ・佐藤理事挨拶・クラブの現状
- ・利根川次期アジアパシフィック会長 世界のワイズメンズクラブの現状
- ・山田次期理事の方針(2期継続)
- ・グループワーク「充実したクラブライフとは」
8人のグループで各自自由に話し合う。

- ・懇親会
- ・部長を中心に部ごとに部役員・会長が集まり各自の思いを自由発言

(翌日)

- ・早朝礼会: 浅羽ワイズのピアノ、奨励は川越クラブの山本剛史郎ワイズ
- ・事業主任報告。各委員長の報告
- ・スマイルは東日本大震災支援に寄付

○山田公平次期理事の所信表明

2023-24年度の方向性と題しての所信表明と会長への依頼をビデオで紹介

- ・次期理事主題「未来のために今、学びと気づきを、未来のために、自信と喜びを感じる機会を」
- ・ワイズとYMCAの協働、ミッションパートナー、クラブの充実について述べ、次期の強調点として1. クラブライフの充実派の工夫と話し。2. ユースアクション3. 継続性が効果を生むなどを掲げ、個別に説明。
- ・他クラブとの合同例会(第2例会で話し合う。

2. 菅野担当主事が4月21日(金)18時より東京世田谷クラブで卓話を頼まれた。当クラブよりの応援を期待。
3. Happy Birthday: 本日出席者の菅野担当主事、長谷川ワイズ、並木メネット、ひつじぐも関口君に記念品贈呈し祝福。
4. スマイル 15,500円にクラブ会計から4,500円を補填して20,000円をトルコ・シリア大震災被災者支援に寄付(東日本区経由YMCAに)

(出席者)

(メンバー)長谷川、佐藤、菅野、小口、久保田、望月、並木真、花輪、並木信、山本、(メネット)並木、久保田
(ゲスト)酢屋さん(ひつじぐも)関口君、高木君

(報告)

3月第2例会報告

日時: 3月25日(土) 18:00~20:00

会場: 北野事務所2階小会議室

出席者(敬称略): 長谷川、菅野、佐藤、花輪、久保田
山本、茂木

報告・検討事項

1. 東京グリーン設立50周年記念例会について
参加者・花輪会長、長谷川、久保田
概要は4月号ブリテンに投稿済み。
2. 2022-23年度東京八王子クラブユース報告
長谷川ワイズより東日本区ユース事業主任報告
メールでクラブメンバーには報告済み。

3. 4月第1例会及び第2例会について

- ・第1例会はJCBL 監事の山口誠史氏によるJCBLの活動について。第2例会は事務会(予約済み)
 - ・4月例会より北野事務所で食事ができないので食事なしで開催する。今回は弁当を用意するので持ち帰っていただく。4月第2例会で今後の対応を検討。
4. 来年度のチャリティコンサートの方向性について
次期並木真会長不在につき、4月第2例会で協議。
 5. 5月13日(土)あずさ部第3回評議会(松本)
出席者: 花輪会長、久保田書記、長谷川会計、小口ユース事業主査、並木真次期会長、茂木副会長は委任状出席
 6. 5月27日(土)草刈及びBBQ
・鎌を使つての草刈とするか、事前に草刈り機で刈取った草をまとめるだけにするか検討する。それによりボランティア保険を掛けるか決める。
・ひつじぐもを含め参加者数を会長より3週間前に出欠を取る。2週間前にはわくわくビレッジに伝える。
・ひつじぐもの会費は全員500円
 7. 6月3・4日の東日本区大会の申し込み
・全員に通知が行っているの各自で申し込む。
・担当主事にはあずさ部より1万円、クラブより8千円負担する、
 8. 設立30周年記念例会につて
・来年(2024年10月)当クラブ設立30周年記念例会について 次期会長の並木真ワイズ出席時に協議する。
 9. 再来年度東日本区大会ホストクラブ立候補はしない。
 10. 神田川船の会(6月10日)、熱海クラブ創立60周年記念例会(11月26日)には各自の判断で参加する。
 11. トルコ・シリア大地震救援募金を3月14日に東日本区に20,000円送金した。

4月のお誕生の皆さん

おめでとうございます

久保田貞視 さん 4月8日



3月のお誕生お祝いスナップ